

2020年12月1日

一般財団法人 化学及血清療法研究所

## 2020年度『化血研研究助成』及び『化血研若手研究奨励助成』の 助成対象者が決定しました

一般財団法人 化学及血清療法研究所（理事長：木下 統晴、所在地 熊本市中央区）は、このたび開催されました理事会において、2020年度『化血研研究助成』6件、『化血研若手研究奨励助成』10件、計16件の助成対象者を決定いたしました。

各プログラムの「助成対象者一覧」、および選考委員長からの「審査講評」は下記の通りです。

### 記

#### 【化血研研究助成】

感染症領域（人獣含む）及び血液領域を対象とした研究に対して助成を行い、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：3,000万円（1,000万/年×3年間）/件

助成期間：3年

採択件数：6件（申請件数145件：採択率4.1%）

### 助成対象者一覧

#### 【化血研研究助成】

（五十音順・敬称略）

氏名	所属機関	職位	研究題目
井上 大地	神戸医療産業都市推進機構 先端医療研究センター	上席 研究員	プロモドメインファミリー分子の転写後制御による造血器腫瘍の発症メカニズムの解明
木村 宏	名古屋大学 大学院医学系研究科	教授	普遍的なウイルスが腫瘍をもたらす謎の解明
滝澤 仁	熊本大学 国際先端医学研究機構	特別 招聘教授	感染ストレスによる造血幹細胞クローン競合のゆらぎと腫瘍化の理解
塚崎 智也	奈良先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科	教授	口腔病原菌バイオフィームに関わる特殊な分泌装置の基盤
原 英樹	慶應義塾大学 医学部	特任 准教授	宿主炎症応答を利用した病原菌の生体内増殖機構の解明と薬剤耐性菌治療への応用
保仙 直毅	大阪大学 大学院医学系研究科	教授	多発性骨髄腫に対する新規 CAR-T および CAR-NK 細胞療法の開発

**【化血研若手研究奨励助成】**

感染症(人獣含む)領域及び血液領域を対象とした次世代の研究者の育成に資するために、将来有望な若手研究者の研究を奨励助成し、対象領域の発展に寄与することを目的とする。

助成金額：300万円 (年間300万円)/件

助成期間：1年

採択件数：10件(申請件数209件：採択率4.8%)

**助成対象者一覧**
**【化血研若手研究奨励助成】**

(五十音順・敬称略)

氏名	所属機関	職位	研究題目
案浦 健	国立感染症研究所 寄生動物部	主任 研究官	オルガネラ制御を中心とした肝内型マラリア原虫の休眠・増殖分子基盤の解明
石津 綾子	東京女子医科大学 医学部	教授	サイトカイン応答性による発生・成人期造血幹細胞の維持制御機構の解明
伊藤 美菜子	九州大学 生体防御医学研究所	准教授	血液中の脳梗塞後炎症抑制因子の探索
遠西 大輔	岡山大学病院 ゲノム医療総合推進センター	准教授	腫瘍内シグナルと腫瘍外免疫環境を同時に標的とする難治性悪性リンパ腫の新規免疫療法の開発
岡崎 朋彦	東京大学 大学院薬学系研究科	助教	タンパク質カルボキシル化による新規抗ウイルス応答制御機構の解析
河部 剛史	東北大学 大学院医学系研究科	准教授	新規Tリンパ球の同定ならびにその生理学的・病理学的意義の解明
菊繁 吉謙	九州大学病院 遺伝子・細胞療法部	講師	ヒト白血病幹細胞特異的代謝特性を標的とした治療法の確立
黒滝 大翼	横浜市立大学 大学院医学研究科	講師	造血早期運命決定の感染防御における意義の解明
野澤 孝志	京都大学 大学院医学研究科	助教	Rab GTPase ネットワークによるゼノファジー制御機構解析
渡部 匡史	琉球大学 大学院医学研究科	講師	沖縄古典型カポジ肉腫における KSHV vIRF2 遺伝子変異の分子ウイルス学的解析

## 審査講評

化血研財団が本（2020）年度より、感染症領域および血液領域を対象とした研究に対して助成を行うことになりました。両分野から、10名の国内専門家を審査委員として選定し、2段階にわたる書面審査で選考を実施しました。本年は COVID-19 流行下にあり、面接審査はできませんでした。

両方で354件の審査があり、研究助成6件、若手（45歳未満）研究奨励助成10件が採択されました。いずれも採択率が4-5%という、きわめて厳しい競争結果になりました。ことに、研究助成は、民間助成としては高額で3年間に渡り、日本学術振興会の科学研究助成では、トップクラスの基盤研究(A)に相当します。しかも、申請者の自己責任で研究が自由に遂行できるということで、人気が高くなったと考えています。

審査の基準としては、科学的に優れた研究であることの他に、同点であれば、独立した研究室立ち上げ中の若手、さらには女性研究者の優先を考慮しました。

研究助成の選考は、審査員自身が審査されていると、考えております。審査委員の先生方のきめ細かい査読により、また、熱心な議論により、厳正な審査ができたと思います。

本研究助成は、数年後に、感染症・血液の領域において、50人近い研究者が助成を受けることとなります。その方々が、日本の、あるいは世界の感染症・血液研究の一翼を担う成果ならびに人材となることを、目的として、今後も、本研究助成の審査に寄与できればと考えています。

なお、助成研究の成果、途中経過に関しては、本ホームページにおいて、随時掲載される予定です。

選考委員長

熊本大学 国際先端医学研究拠点・拠点長

シンガポール国立大学・教授

須田年生

以上